支笏洞爺国立公園支笏湖・定山渓地区自然体験活動推進プログラム 2020 年度のプログラム達成状況と 2021 年度の取組

１．「支笏洞爺国立公園支笏湖・定山渓地区自然体験活動推進プログラム」指標目標値の達成状況

(1) 指標目標値

支笏湖・定山渓地区自然体験活動推進プログラムでは、2025 年あるいは 2025 年度を目標年次として、2020 年度に以下の指標目標値を設定した。

目標値1:宿泊客延べ数(年度合計)

訪日外国人の需要回復に時間がかかることから、地域の観光産業を維持するためにも道内外の旅行者需要の回復、確保が重要である。コロナ禍の影響を受けていない 2019 年 1 月から 12 月までの直近 1 年間(2019 年)の宿泊客延数を 2020 年度以降の回復目標値に設定した。

（支笏湖地区：千歳市提供データ、定山渓地区：札幌市提供データによる）

目標値2:日帰り利用者数(年度合計)

国立公園の利用は宿泊だけではなく、日帰りの利用も多い。国内外を問わず、全体の利用動向を把握するうえで重要な指標となる。コロナ禍の影響を受けていない 2019 年 1 月から 12 月までの日帰り利用者数を 2020 年度以降の回復目標値に設定した。

（支笏湖地区：千歳市提供データ、定山渓地区：札幌市提供データによる）

目標値3:季節変化(宿泊客延べ数最少月/宿泊客延べ数最多月:年度内変化)

安定した観光事業経営のために、また質の高い利用環境を確保するために、利用の平準化を図ることが必要である。コロナ禍の影響を受けていない直近２年間の変化率(最多月の宿泊客延べ数を 100 としたときの最少月の比率)から、支笏湖地区は変化が激しいことから目標値を最多月の半数の 50、定山渓地区では 2019 年、2018 年の数値から目標値を 70 に設定した。（目標値１の月別データより算出）

目標値4:訪日外国人旅行者数(年合計)

アンケート調査（観光庁「訪日外国人消費動向調査」）による推計値ではあるが、訪日外国人の宿泊、日帰りの両方が含まれた利用の指標となる。コロナ禍を受けていない 2019 年の推計値を回復目標値とした。（環境省「国立公園における訪日外国人利用者数の推計調査」データによる）

目標値5:訪日外国人宿泊客延べ数(年度合計)

コロナ禍の影響を受けていない 2019 年 1 月から 12 月までの外国人宿泊客延べ数を 2025 年度までの回復目標とした。（支笏湖地区：千歳市提供データ、定山渓地区：札幌市提供データによる）

参考比較値:支笏湖・定山渓地区及び周辺の主要施設の利用者数

国立公園内外の主要施設や道の駅等の利用状況を収集し、目標値の参考とする。

（千歳市、苫小牧市、札幌市、環境省等を通じてデータを入手）

(2) 2020 年度の指標値

2020 年度における支笏湖地区及び定山渓地区の指標目標値の達成状況は、表 2-1、2-2 に示す通り達成率が 50%に満たない項目がみられ、厳しい結果となった。

なお、2020(令和 2)年度の訪日外国人旅行者数は、入国制限等により推計に用いる空港での調査が中止となっているため算出されていない。

表 2-1 支笏湖地区

	指標	期間	目標値	2020(令和 2)年度	達成率
目標値１	宿泊客延べ数 ：人泊	年度	157,000	**115,617**	73.6%
目標値２	日帰り利用者数：人	年度	913,000	**353,547**	38.7%
目標値３	季節変化 （最少月宿泊客延べ数/ 最多月宿泊客延べ数）	年度	50/100（0.5） 2019 年： （0.29） 2018 年： （0.31）	**9/100** **(0.09)** 2,011（4 月）/ 21,942（8 月）	18.3%
目標値４	訪日外国人旅行者数※：人	年	40,000	1-3 月（6,439）※	-
目標値５	訪日外国人宿泊客延べ数：人泊	年度	27,000	**968**	3.6%

表 2-2 定山渓地区

	指標	期間	目標値	2020(令和 2)年度	達成率
目標値１	宿泊客延べ数 ：人泊	年度	1,138,000	**361,334**	31.8%
目標値２	日帰り利用者数：人	年度	419,000	**242,721**	57.9%
目標値３	季節変化 （最少月宿泊客延べ数/ 最多月宿泊客延べ数）	年度	70/100（0.7） 2019 年： （0.66） 2018 年： （0.65）	**15/100** **(0.15)** 8,933（5 月）/ 60,010（10 月）	21.3%
目標値４	訪日外国人旅行者数※：人	年	131,000	1-3 月（9,421）※	-
目標値５	訪日外国人宿泊客延べ数：人泊	年度	209,000	**35**	0.0%

※「訪日外国人旅行者数」：
2020 年 4 月以降新型コロナウイルス感染症の影響により入国制限が拡大し、推計に用いている観光庁「訪日外国人消費動向調査」が 4～12 月期に中止されたため、2020 年の国立公園の訪日外国人利用者数は算出不可。なお、1～3 月期の国立公園訪日外国人利用者数は 93 万人と推計。前年同期と比較して 82 万人減（46.8%減）と、大幅に減少した。
上記の淡色の（ ）ない数字は、1-3 月期の推計値を記載している。

(3) 2020 年度のコロナ感染拡大とその影響

2020 年度は、4 月 17 日から 5 月 25 日の期間、国の緊急事態宣言が発出された(表 2-4)。感染拡大初期において感染者数は少ない(図 2-1)が、不要不急の外出自粛が求められ、緊急事態宣言の期間中、主要な観光施設では休館、休業となった。

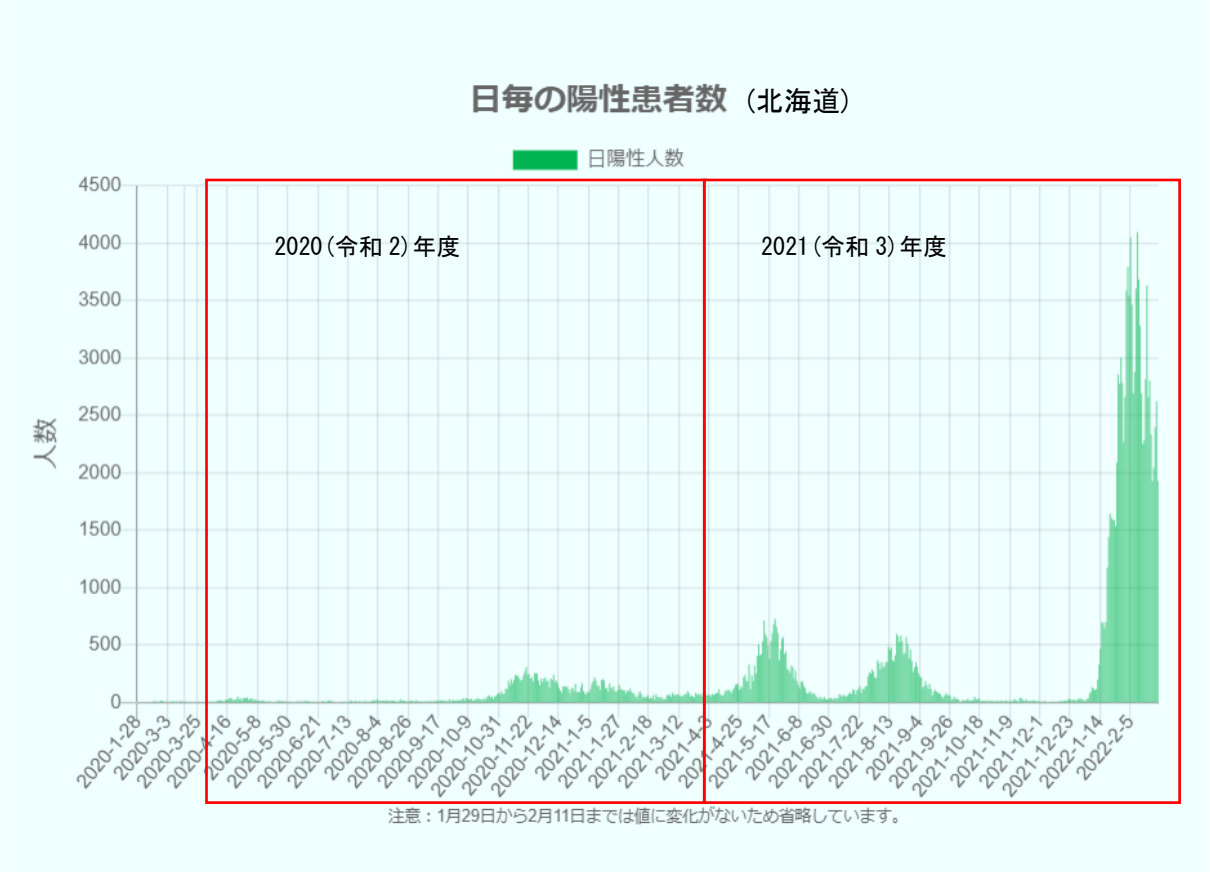
参考として、新千歳空港の 2020 年度の乗降客数を 2019 年度比(表 2-3)でみると、国際線は 0%、国内線は約 30%にとどまっている。

表 2-3 新千歳空港乗降客数

	国際線乗降客数(人)	2020/2019(%)	国内線乗降客数(人)	2020/2019(%)
2019(令和元)年度	3,308,212		19,506,738	
2020(令和2)年度	10	0.0%	6,436,335	33.0%

国土交通省空港管理状況調査より抜粋

図 2-1 新型コロナウイルス感染症の北海道における拡大状況（2020 年 1 月 28 日～2022 年 2 月 25 日の期間）



https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/dtf/opendata/covid19.html より

表 2-4 新型コロナウイルス感染症対策の状況

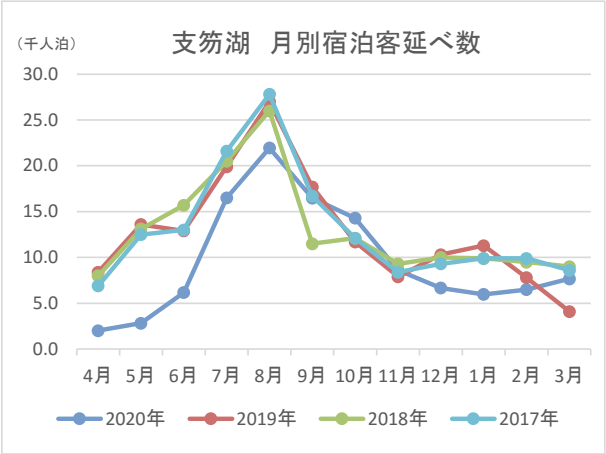
2019(令和元)年度	2020/1/28	道内で初めて感染者を確認(中国武漢市からの旅行者)
	2020/2/27	全道の小中学校に休業を要請【期間2/27～3/4】
	2020/2/28-3/19	新型コロナウイルス道独自の緊急事態宣言を決定・開始【期間2/28～3/19】
2020(令和2)年度	2020/4/8～5/6	新型コロナウイルス感染症集中対策期間
	4/17～5/25	**緊急事態宣言**
	5/25～5/31	国が緊急事態宣言の解除を決定、感染拡大に向けた「北海道」の取組
	6/1～7/31	段階的緩和
	8/1～9/30	新北海道スタイル集中対策期間
	10/28～	集中対策期間
	2021/3/7	集中対策期間終了
	2021/3/8～/5/8	感染の再拡大に向けた取組
2021(令和3)年度	5/9～/5/15	まん延防止等重点措置
	5/16～/6/20	**緊急事態宣言**
	6/21～/7/11	まん延防止等重点措置
	8/2～8/26	まん延防止等重点措置
	8/27～9/30	**緊急事態宣言**
	2022/1/27～3/6	まん延防止等重点措置

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/covid-19/koronasengen.html より抜粋

(4) 2020 年度の月別利用状況

月別の利用状況をみると、5 月連休等で例年入込が増える時期に宿泊、日帰り共に入込客が少ない状況となり（図 2-2、2-3、2-4）、緊急事態宣言による影響が顕著にみられた。支笏湖の 9-11 月の宿泊客延数は例年と同じ、10 月は例年より多く、Goto トラベル等の効果によるものと考えられ、この時期の入込により目標値達成率が約 70%となった。

図 2-2 支笏湖地区及び定山渓地区の月別宿泊客延べ数



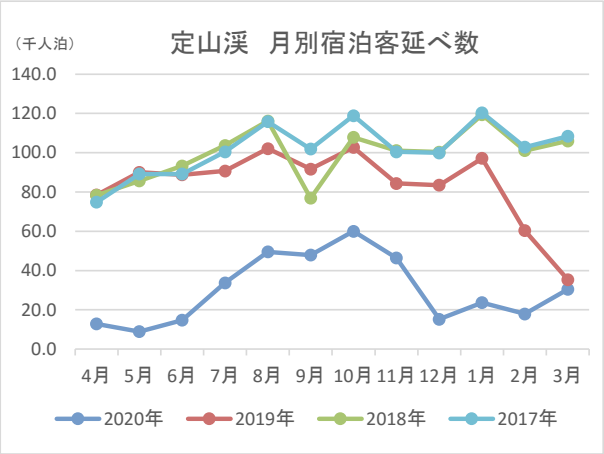


図 2-3 支笏湖地区及び定山渓地区の月別宿泊客延べ数

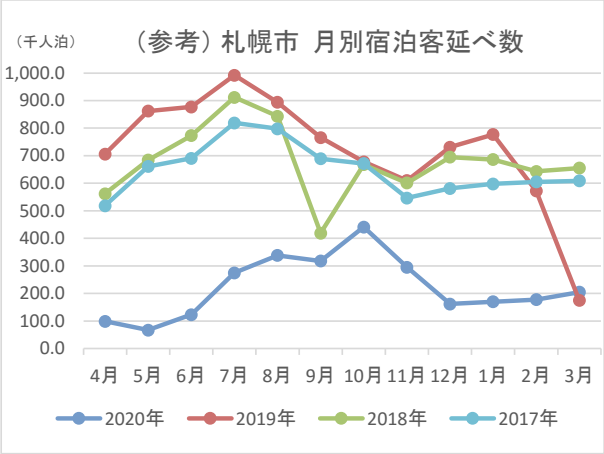
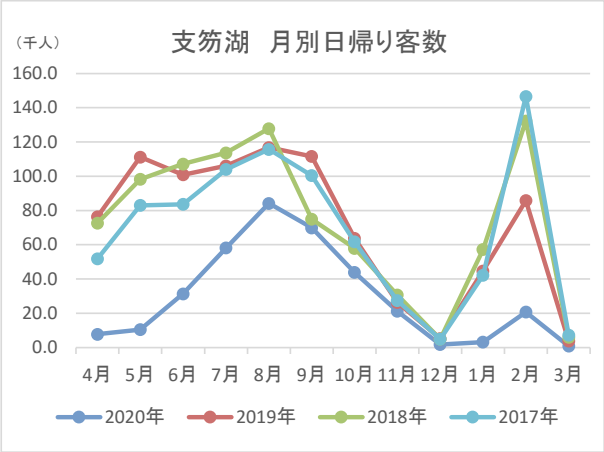
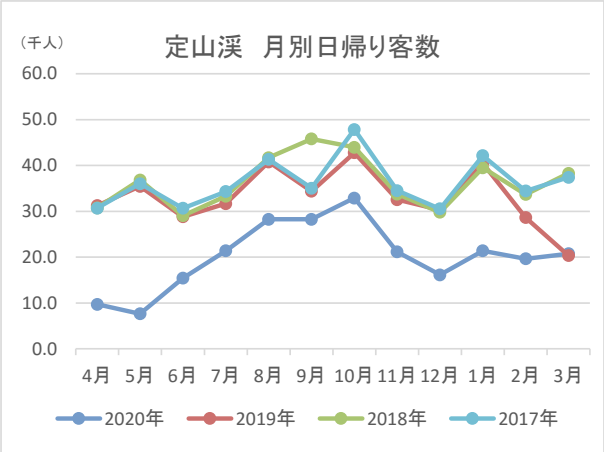


図 2-4 支笏湖地区及び定山渓地区の月別日帰り客数





2020 年度は、休業を余儀なくされた宿泊施設も少なくないものと推測され、最多月と最少月の変化が著しいものとなった（図 2-5）。

なお、2020 年度期間中、支笏湖地区では宿泊施設が 1 つ減り収容人数が約 100 人減少し、定山渓地区では施設数は 12 増えたが収容人数は約 200 人近く減少した（表 2-5）。

図 2-5 支笏湖地区及び定山渓地区の宿泊客延べ数の最多月と最少月

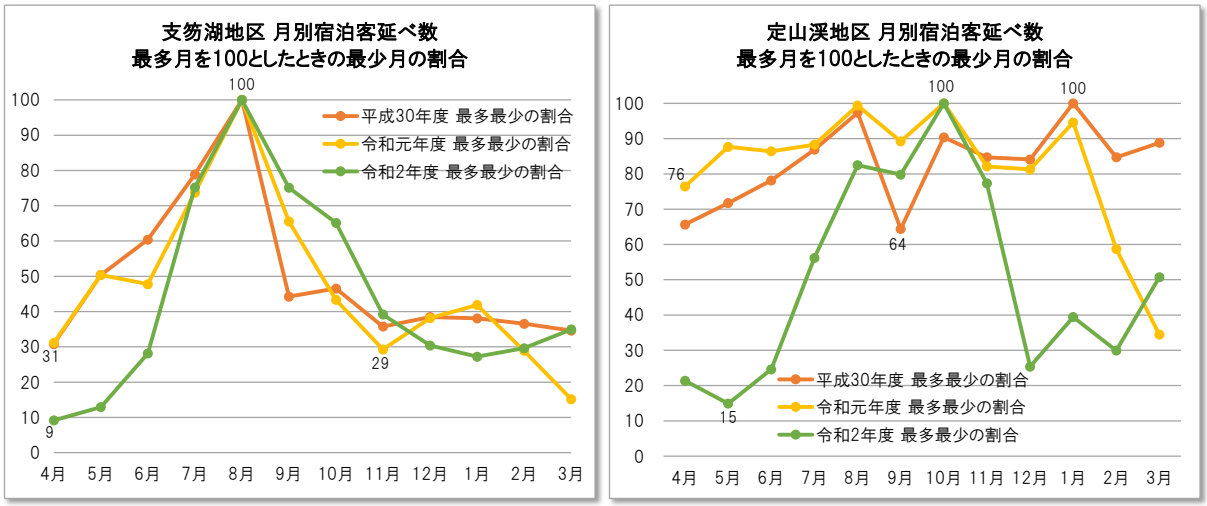


表 2-5 参考 宿泊施設の収容力の推移

支笏湖

集計基準日	軒数(軒)	客室数(室)	定員(人)
平成28(2016)年5月1日現在	10	219	807
平成29(2017)年5月1日現在	10	219	807
平成30(2018)年5月1日現在	10	219	807
平成31(2019)年5月1日現在	11	244	903
令和２(2020)年5月1日現在	11	244	903
令和３(2021)年5月1日現在	10	226	795

定山渓

集計基準日	軒数(軒)	客室数(室)	定員(人)
平成28(2016)年3月31日	22	2,066	8,429
平成29(2017)年3月31日	21	2,052	8,407
平成30(2018)年3月31日	21	2,075	8,464
平成31(2019)年3月31日	21	2,094	8,535
令和２(2020)年3月31日	23	1,970	7,623
令和３(2021)年3月31日	35	1,944	7,449

「要覧ちとせ」「札幌の観光」より

(5) 参考比較値（周辺主要施設利用者数）

支笏湖地区及び定山渓地区の国立公園内外の観光施設等の年間利用者数は、2019 年度に比べて半減するなど多くが減少し（表 2-6、2-7）、また、民族共生象徴空間ウポポイは、当初 2020 年 4 月にオープン予定だったが、コロナ禍の緊急事態宣言下でもあったことから、7 月に延期された。

一方で、感染対策として密を避けたキャンプ等のアウトドア活動が盛んになってきており、モラップキャンプ場や樽前山では利用者数が約 3 割前後の増加がみられた（表 2-6）。この傾向はコロナ感染が収束していない 2021 年度も継続すると推測される。

各施設の月別の利用状況は、緊急事態宣言期間中の 5 月に減少するが、夏休み期間の 8 月や紅葉シーズンの 10 月に増加しており（図 2-6）、観光需要喚起対策として始められた Goto トラベルや各種のクーポン発行、地域割引きによる効果と考えられる。

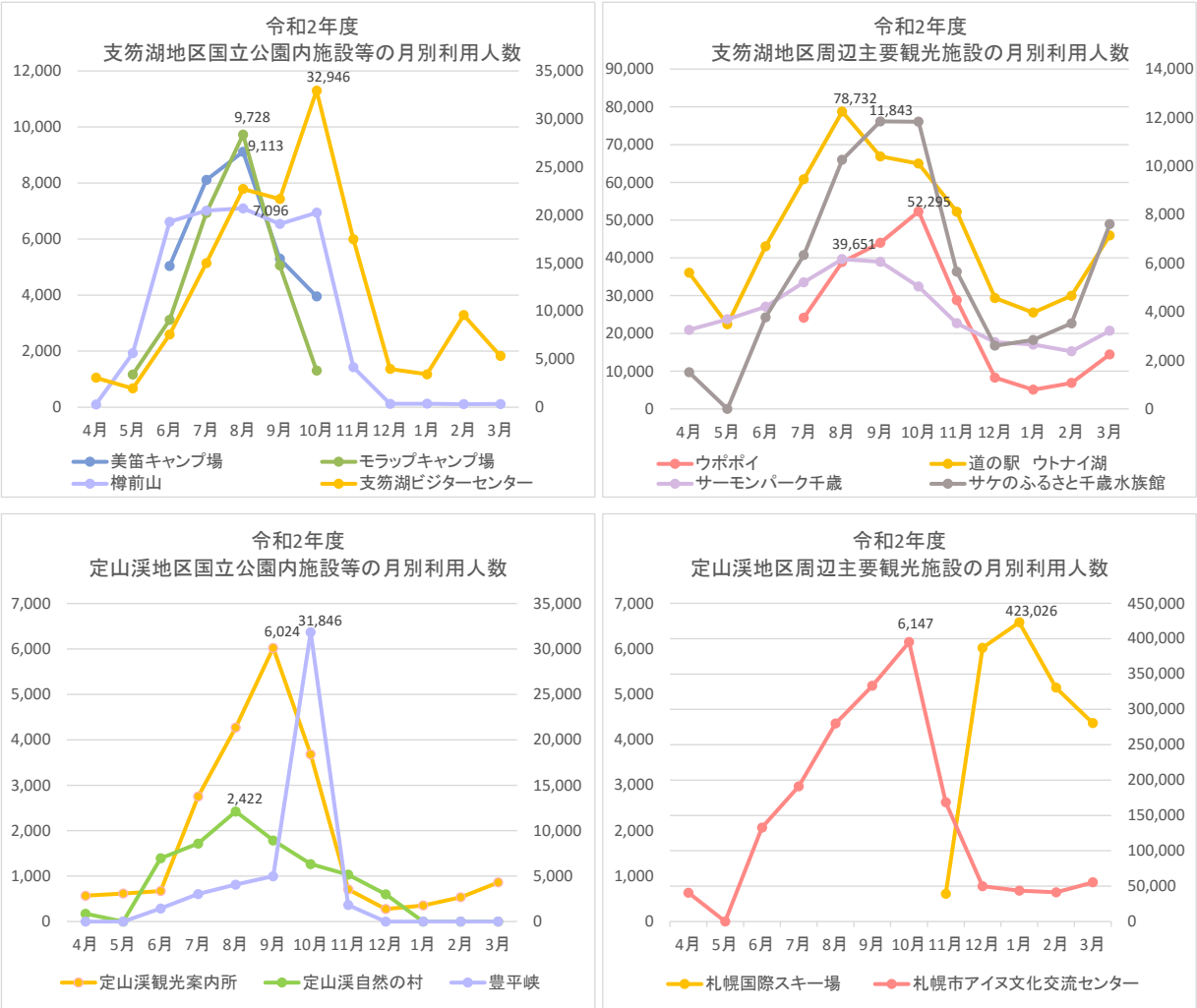
表 2-6　参考比較値：支笏湖地区の国立公園内外の主要施設等の月別利用状況（2020(令和 2)年度）

施設名	所在地	種別	数値	年次	2020年/2019年	備考
国立公園内						
支笏湖ビジターセンター	千歳市	利用者数(人)	144,707	2020年度	54%	
			267,724	2019年度		外国人38,176
			249,082	2018年度		外国人40,839
			243,066	2017年度		外国人33,580
						データ提供：環境省
モラップキャンプ場	千歳市	利用者数(人)	27,302	2020年度	131%	
			20,822	2019年度		
			17,503	2018年度		
			18,770	2017年度		
						データ提供：環境省
美笛キャンプ場	千歳市	利用者数(人)	31,513	2020年度	89%	
			35,439	2019年度		
			24,632	2018年度		
			25,754	2017年度		
						データ提供：千歳市
樽前山	苫小牧市	利用者数(人)	38125	2020年度	125%	外国人(概数) 567人
			30,466	2019年度		外国人(概数)1,686人
			28,454	2018年度		外国人(概数) 994人
			33,605	2017年度		
						データ提供：苫小牧市
道の駅						
サーモンパーク千歳	千歳市	利用者数(人)	309,638	2020年度	74%	
			417,952	2019年度		
			406,434	2018年度		
			398,006	2017年度		
						データ提供：千歳市
ウトナイ湖	苫小牧市	来場者数(人)	555,977	2020年度	72%	
			777,220	2019年度		
			736,646	2018年度		
			757,831	2017年度		
						データ提供：苫小牧市
主要観光施設						
サケのふるさと千歳水族館	千歳市	利用者数(人)	67798	2020年度	56%	
			120,049	2019年度		
			118,452	2018年度		
			118,411	2017年度		
						データ提供：千歳市
ウポポイ (2020年7/12ｵｰﾌﾟﾝ)	白老町	入場総数(人)	222,794	2020年度	7月-3月期間	うち教育旅行 51,562人
				データ提供：公益財団法人アイヌ民族文化財団		

表 2-7 支笏湖地区及び定山渓地区の国立公園内外の主要施設等の月別利用状況(2020(令和 2)年度)

施設名	所在地	種別	数値	年次	2020年/2019年	備考
国立公園内						
豊平峡	札幌市	利用者数(人)	47,194	2020年度	53%	
			89,411	2019年度		
			70,331	2018年度		
			86,758	2017年度		
						データ提供:札幌市
定山渓自然の村	札幌市	利用者数(人)	10,392	2020年度	44%	
			23,588	2019年度		
			20,817	2018年度		
			20,187	2017年度		
						データ提供:札幌市
定山渓観光案内所	札幌市	利用者数(人)	21,327	2020年度	96%	外国人　236人
			22,279	2019年度		外国人8,070人
			21,712	2018年度		外国人7,567人
						データ提供:定山渓観光協会
周辺観光施設						
札幌市アイヌ文化交流センター	札幌市	利用者数(人)	26,930	2020年度	46%	
			58,241	2019年度		
			55,083	2018年度		
			53,006	2017年度		
						データ提供:札幌市
札幌国際スキー場	札幌市	リフト利用延べ人数(人)	1,674,000	2020年度	88%	
			1,908,000	2019年度		
			1,895,000	2018年度		
			1,811,000	2017年度		
						データ提供:札幌市

図 2-6　参考比較値：支笏湖地区の国立公園内外の主要施設等の月別利用状況（令和 2 年度）



２.「支笏洞爺国立公園支笏湖・定山渓地区自然体験活動推進プログラム」2021 年度の取組について

(1) 2021 年度の取組にみられる特徴

① アドベンチャートラベル（ＡＴ）の推進

雄大な自然景観や野生動物等の自然、トレッキングやカヌー、スキー等のアクティビティ、アイヌ文化や縄文文化等の異文化体験、これらを旅するアドベンチャートラベル（ＡＴ）の世界イベント（アドベンチャートラベルワールドサミット：ＡＴＷＳ）が、2021 年 9 月に北海道においてバーチャル開催された。北海道など当協議会構成機関をはじめとした関係機関が準備を進め、動画や商談会により北海道の魅力が発信された。その結果、国内外から高い評価を受けて、ＡＴＷＳが 2023 年に北海道でリアル開催されることが決定した。

推進プログラムの取組では、このＡＴＷＳ開催のほか、ＡＴを対象としたハード、ソフトの整備が官民で実施され、ＡＴが推進された。

【ＡＴに関する取組例】

ＡＴＷＳ(ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾄﾗﾍﾞﾙﾜｰﾙﾄﾞｻﾐｯﾄ)の開催	・2021 年のＡＴＷＳの準備及びバーチャル開催 ・2023 年のＡＴＷＳのリアル開催に向けての準備
ＡＴ対応の拠点整備	・支笏湖 Village 構想（民間事業者のＡＴ拠点整備）※ ・定山渓宿泊事業者によるＡＴ拠点整備※
ＡＴ対応のコンテンツ作成、商品造成	・支笏湖 Village 構想（ＡＴモデルルート等の実証実験）※ ・定山渓宿泊事業者による夏型ＡＴコンテンツ作成※ ・ＡＴ対応商品造成（支笏湖）※、 ・定山渓アクティビティコンテンツ創出調査
ＡＴコンテンツの PR	・登山ガイドブック作成、Web 掲載（定山渓）※ ・ＡＴ動画作成、発信

※当協議会構成機関、関係省庁の補助金、助成金等を活用した取組

② 民間事業者による取組

上記のＡＴに関する取組では、当協議会構成機関が窓口となり補助金等による民間事業者に対する事業支援があり、観光関連の事業者によるツアー商品開発の調査や実証実験、ＡＴ拠点となるハード整備等が進められた。ツアー商品や施設等、今後の受入環境の充実が期待される。

③ 「ウポポイ」と世界文化遺産の縄文遺跡との連携

2020（令和２）年７月に民族共生象徴空間「ウポポイ」が一般公開され、2021（令和３）年７月に千歳市のキウス周堤墓群を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録された。これらの世界レベルの文化資源と連携する取組もみられ、支笏湖とキウス周堤墓を巡るバスの実証実験や、ウポポイとの情報共有等、協力体制構築のための取組が行われた。

④ アウトドア活動の増加に対する取組

コロナ禍以降、密を避けてのレジャーとしてキャンプ等のアウトドア活動が増加傾向にある。この影響により顕著となってきた湖面や湖岸のオーバーユースやマナー違反等の問題を解決するため、支

笏湖地区では湖面(湖岸)利用に関する地域ルールの検討が行われた。コロナ禍において、またコロナ後に向けて、受入れ環境の管理に関する取組が必要となっている。

(2) 2022 年度に向けた課題

【道内、国内客による利用推進】

2020 年度の新千歳空港における国際線乗降客がほぼゼロに近い状況にあり、2021 年度も同じ状況が続いている。訪日外国人の回復は見通せない状況にあり、道内、国内を中心とした宿泊、日帰りの客数の回復もまだ途中の段階であるが、コロナが収束するまでの期間は、ワーケーションなどの滞在やアクティビティによる日帰り等、さまざまな形での利用を推進していくことが求められる。多彩なツアーやプログラム等の商品開発、拠点施設の整備の取組が、ひきつづき期待される。

【適正利用の推進】

密を避けたキャンプや登山等アウトドア活動の需要が高まっており、道央の都市近郊にある支笏湖・定山渓地区では、利用上の問題が顕在化してきている。登山道に関する意見交換会においては、樽前山におけるオーバーユースによる路上駐車や危険区域での登山の問題が、また、定山渓地区部会では川岸でのごみや火の扱い等マナーの問題が指摘された。支笏湖地区部会では、水辺利用のマナーや安全性の問題から地域ルールの検討、策定が取組として報告された。

ＡＴの推進によりカヌーや登山等のアクティビティが盛んになることが期待される一方で、フィールドとなる湖面や山岳地域等において、ルール策定やその運用、管理手法や体制づくりを検討し整備していくことが必要となってきている。

【持続可能な利用、ゼロカーボンの推進】

ＳＤＧｓへの関心の高まりや、またＡＴ市場の多くを占める欧米豪圏では環境に配慮した持続可能な観光への関心が高いことから、利用施設やサービス等における脱炭素、ゼロカーボン対策を施した受入環境の整備が望まれる。千歳市では脱炭素社会の実現に向けてのゼロカーボンシティ宣言がなされ、支笏湖周辺における脱炭素の取組が今後期待される。